


原子力研究開発機構のお金の使い方 1/2

前にご紹介した通り、2013年度(H25年度)

 独立行政法人日本原子力研究開発機構には
エネルギー対策特別会計の電源開発促進勘定 約3,222億円から
約942億円の運営費がまわっていました。

毎年電源開発促進勘定3千億円の3割近い額を受け取る原子力研究開発機構は

一体何にお金使ってるの？

というのを調べてみました。

そもそも

「日本原子力研究開発機構」の使命は



原子力の未来を切り拓き、人類社会の福祉に貢献する

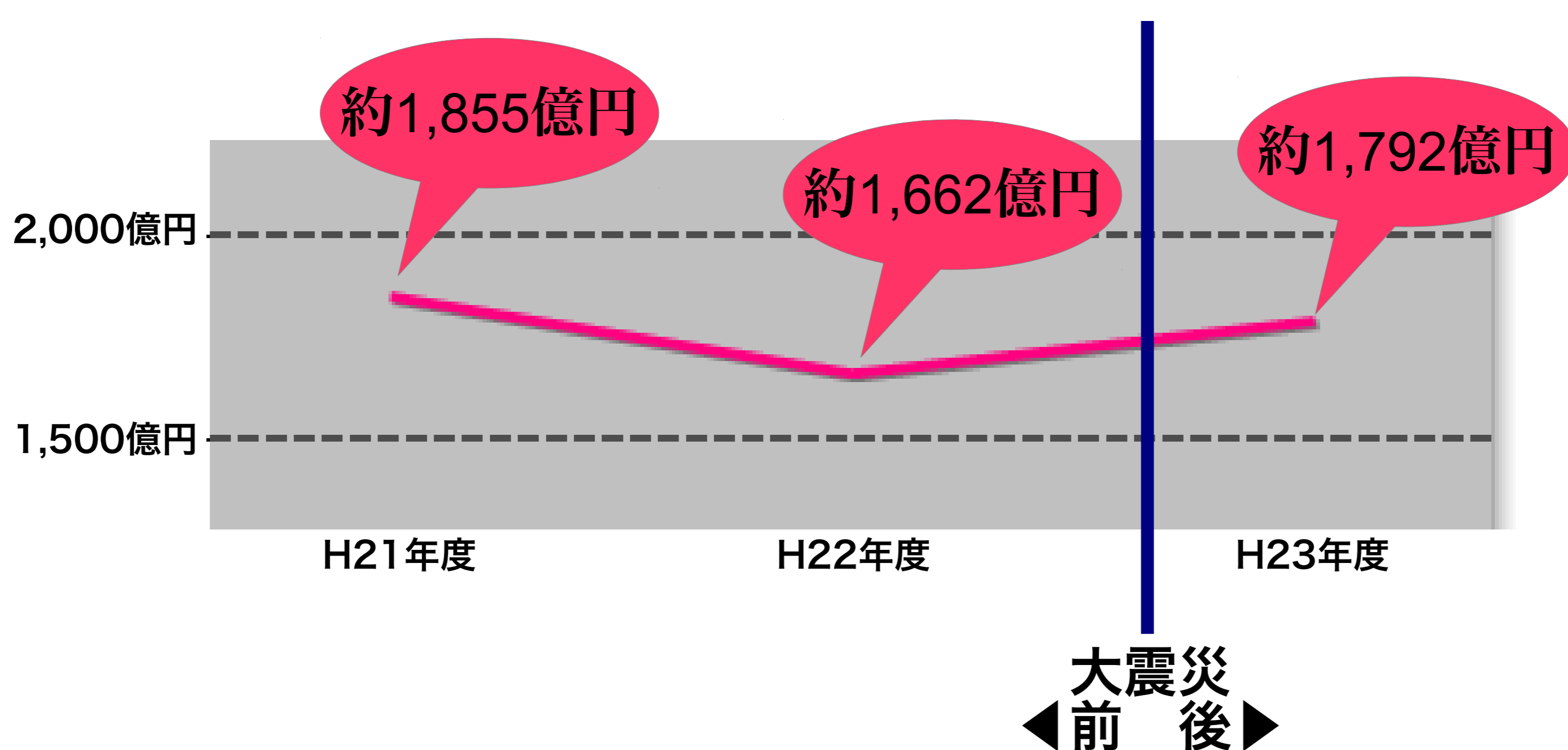
ことなのだそうで

「独立行政法人日本原子力研究開発機構法」第4条によると、その目的は

原子力に関する基礎的研究及び応用の研究
並びに核燃料サイクルを確立するための高速増殖炉及びこれに必要な核燃料物質の開発
並びに核燃料物質の再処理に関する技術及び高レベル放射性廃棄物の処分等に関する技術の開発
を総合的、計画的かつ効率的に行うとともに、
これらの成果の普及等を行い、
もって人類社会の福祉及び国民生活の水準向上に資する原子力の研究、開発及び利用の促進に寄与する

「もんじゅ」や「ふげん」などもこの機構の拠点の一部です。

まずは総額で”幾ら”使ってるのか？というところ



データの説明)

元にしたのは各年度の『事業報告書』です。

これは財務諸表添付書類として財務諸表と共に公表されています。

この『事業報告書』に「財務データ及び業務実績報告書と関連づけた事業説明」という項目があり、各研究開発の内容とそれに要した費用が記載されています。

すなわち予算ではなく実際に使った金額のほうです。

その費用を年度別に合計したものが上図の金額です。(内訳は2ページ目をご覧ください)

なおH24年度の事業報告書がまだ公開されていないため、H23年度までの情報しかありません。

早くH24年度事業報告を見たいなあ

元データ)

平成21事業年度 財務諸表添付書類 事業報告書

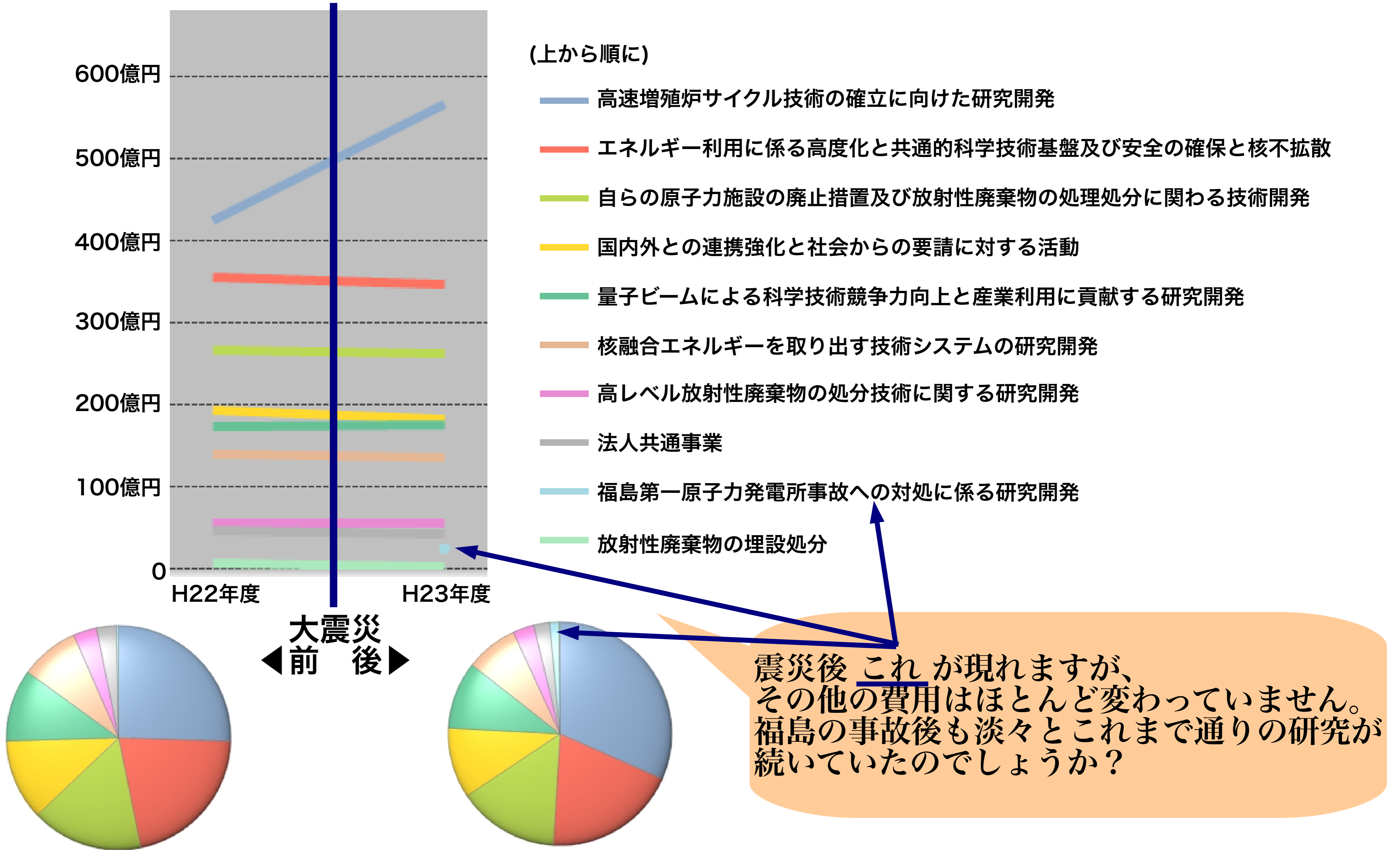
平成22事業年度 財務諸表添付書類 事業報告書

平成23事業年度 財務諸表添付書類 事業報告書

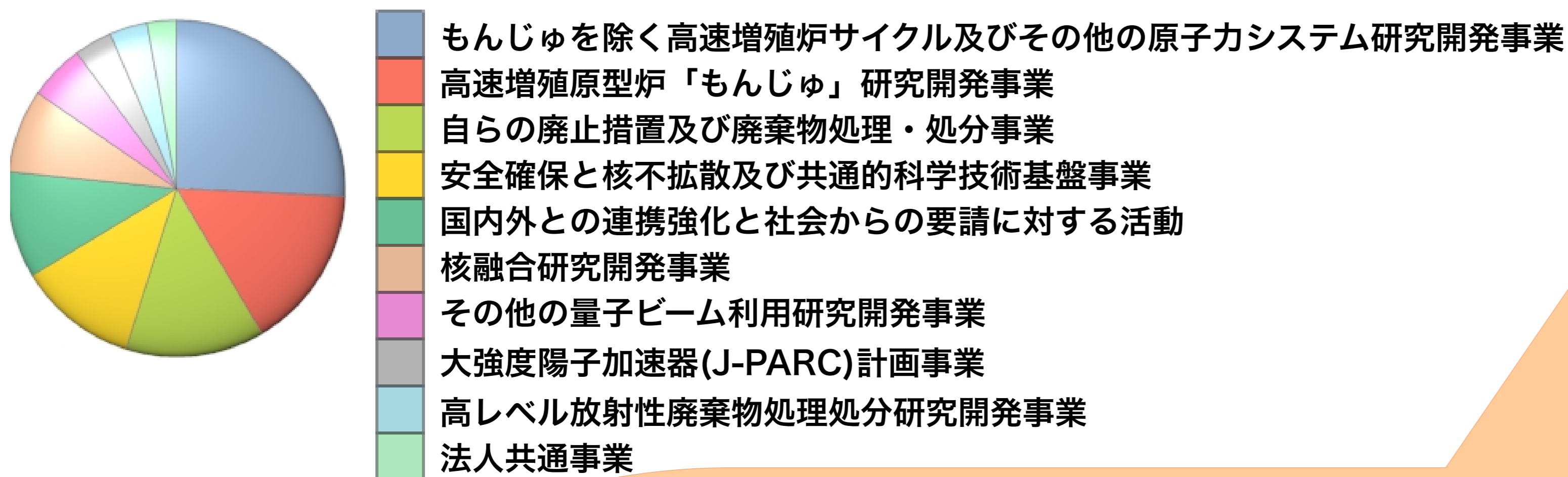
→原子力研究開発機構HP「財務情報」http://www.jaea.go.jp/about_JAEA/financial/

原子力研究開発機構のお金の使い方 2/2

前ページの合計金額を少し細かく見ます。(なぜH21年度がないのかは後述します)



なぜ上の図にH21年度がないのか？という、事業項目名に”つながりがない”からなのです。。下にH21年度の費用割合を示しますが、項目名にご注目。上の項目名と同じようなものもありますが、そうでないものが大半です。また金額や内容から、項目の中身が分かれたり、くっついたりしているものもありそうです。



H21年度で第1期中期目標期間というものが終わり、H22年度から第2期中期目標期間が始まっているのが原因の1つと思われます。が！

これだと長期間の比較検証ができないです。。。。お金の動きは過去と比較できるような形で公表してほしいです。

そして、原子力研究開発機構は組織の抜本改革が検討されており(*1)、「もんじゅ」以外の研究開発はこの機構から切り離されようとしています。組織の改革はいいんですが、名前を変えれば過去の事はチャラ、などとは考えないで欲しいものです。

(*1) 日本原子力研究開発機構改革本部 (第四回) 配布資料
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kaihatu/018/shiryo/1338589.htm

そもそも組織云々言う前に福島原発の問題に組織の総力を結集してほしい、と思う訳です